

## 授業方法について独自に工夫していること 【教育科学系】

授業の方法として、次のような点に留意あるいは工夫をして行っている。

- ・あえてパワーポイントを印刷せず、メモをとる習慣がつくように配慮していること。
- ・視覚的に理解が深まるように、できる限り授業テーマに関連するVTRや配布資料、写真等を用意していること。
- ・10分～15分程度、少人数で授業テーマに関して話し合う時間をとったり、コメントカードという形で授業を学生個人が振り返る時間を取るようになっていること。

座学で終わらないように、ゲストをお招きして、学校現場で何が起きているのかを、具体的に知ってもらおうと努めた。

また、日本語がわからない児童生徒やその保護者とのコミュニケーションに必要な知識を具体例を示しながら伝えた。

- ・百数十名の大人数講義であるが、ほぼ毎回問いを立てて、周りの学生同士で意見交流させるようになっている。
- ・意見交流の結果を踏まえた学生の考えを何名かに出してもらい、それを踏まえた上で、講義を進めるようにしている。そのことで、学生の経験・意識・考え方と授業内容との共通点と違いを受講生が認識できるように心がけている。大げさに言えば、生活と教育の結合、生活と科学の結合を意識しているということになるだろうが、大げさすぎますね……。
- ・出された学生の意見は、できる限り否定・批判しないようになっている。
- ・授業後に書いてもらっているリアクションペーパーに、学生が思っていること、考えていることをできるだけ素直に書けるような工夫を心がけている。多少批判的な内容、一見授業と関係ない内容も時々紹介するようにして、学生が素直にリアクションペーパーを書けるように心がけている。
- ・パワーポイントの資料はかなり丁寧に、かつ見やすいものを心がけている。

学生どうしの対話や意見表明を積極的に取り入れている。教育実習などの実践活動と教育相談の理論をできるだけ融合できるように授業の組み立てをしている。4年生ということもあり、コンピューターを準備する間の細切れ時間に本授業に関する実践問題を解き、教採に対する意識を高めている。

本授業では、大学に入学して初めて心理学を学ぶ学生のために、抵抗感を減少させつつ心理的諸事実に馴染みやすいようにイラストを多用したスライドを使用している。また、新しい学習指導要領にあるように学生間で対話、すなわちディスカッションできる話題や時間を設けている。さらに、主体的関与を促すため、心理学の教科書を使い範囲を定め各人が模擬授業を行ってもいる。教職の授業であるため、その模擬授業に対し、聞き手がコメントを書き発表者の向上に資するように制度設計している。多くの同学年による模擬授業を見て、良いところを見習い、改善点を考えるなど聞き手にも有益であるが、クラスの人数が多いのが難点である。

12名という少人数の講義であるので、学生とのやりとりの時間をできるだけ確保している。学習指導要領の具体化したイメージが湧きやすいように、学生は、児童用教科書を常に見ながら講義を受けられるようにしている。また、児童用教科書は1社だけでなく6社のものを年代を追って準備している。また、グループで検討する機会を十分に取った。単元構成の作成時には指定された内容の単元構成に関する参考図書を授業前に図書館で探してくるよう指示して行った。

一方的なやりとりにならず、双方向、あるいは学生同士の話し合いを重視している。

学部1年生が受講するため、目で見てわかりやすい資料を用いること。また、課程共通科目でもあり、興味関心のない学生も多いと思われるため、あまり専門的な内容に踏み込みすぎないようにすること。

次回の講義に関連する課題を出し、各自で調べてくるよう指示している。また当日の講義では、受講生を小グループに分け、自分で調べてきた課題の解答を相互に紹介しあい、話し合いの結論をグループの代表に発表させている。講義の最後には学生にコメントカードを書かせ、数名のカードを選んで印刷して次回の講義で配布するとともに、別の数名のカードを口頭で紹介している(いずれも名前は伏せている)。

・専門的内容をできるだけわかりやすく説明する。  
・心理学を学校教育の問題と関連づけて説明する。  
・パワーポイントを使用して、障がいのある学生にもわかりやすくする。  
・ときどき、グループワークをおこない、参加型授業にしている。  
・学校の児童生徒の様々な課題に関わるビデオを鑑賞させてコメントを書いてもらい、各コメントに回答を書くようにしている。

・読書タイムを設け、テキストを読む時間を作っています。  
・レポートを輪読し、レポートの書き方を相互に学ぶようにしています。  
・グループワークを3回ほど入れています。

生活科という教科の特質を踏まえ、体験活動と講義をバランスよく配置している。  
学生同士で学び合う機会を確保するため、グループによる発表・討議の場を設定している。  
「C-Learning」のシステムを使い、すべての学生の意見を授業に生かしたり、学生同士で意見交流をしたりできるようにしている。

・第1に、受講生が主体的に学びを深めてくれるようにできる限り毎授業でアクティブラーニングを取り入れるよう配慮しています。各回の授業テーマに沿ったグループディスカッションテーマを提示し、授業内容の定着と意見の共有を図っています。  
・第2に、「教育思想」をベースにした抽象的な内容を扱うことも多いため、これでもできる限り現代的な教育課題や問題に関連する「動画」を鑑賞し授業内容を、各自が具体化できるように配慮しています。

一方的な知識注入の授業ではなく、学生が自己の考えを多く表出できるように授業を構成することを心がけた。  
グループディスカッション、全員模擬授業、実際に使用されている教材の吟味等、理論と実践を融合できる場面(課題・学習形態)を授業の中に組み込むようにした。

本授業では視聴覚教材を用い発達段階の違いについての理解を深めたり、簡単な実験を通して人の記憶・学習の仕組みについての知識を体感を持って獲得する試みをしている。

・生活科の目標・内容・方法について、できるだけ資料の読解や説明のみに頼るのではなく、生活科の教科特性に従い、活動や体験をしたことから実感を伴った理解ができるようにしている。  
・生活科の教科特性に従い、教室を飛び出したり、教室の中であっても制作活動や表現活動をしたりして、座学のみにならないようにしている。  
・1時間に1課題を提示し、それを自分で考え、グループで協議し、全体で情報交換して課題解決をしている。課題解決のパターンを示したノート(A4表裏1枚)を活用している。

理論に関連した具体的なエピソードを提示し、日常や将来の仕事での活用を念頭に置いて、授業を行っています。具体的なエピソードを日常生活における場面、医療現場・教育現場における場面から提示しています。また、学生自身のこれまでの学校生活や日常における体験を振り返る機会を設けることで、自分自身と体験と理論を結び付ける働きをしていました。内容量や難易度については、ちょうどよい、という評価を受け、良かったと思います。講義の様子から、90分は1年生にとっては長く、疲れが見える学生もいました。45分を目安に、リアクションペーパーを書く機会を中間と最後の2度設けることで、小休止をとるようにしていました。

生活科研究ということで、学習指導要領で示された生活科の目標や内容などについての理解をするための講義は行うものの、教科書を活用し、実際の小学校で小学生が行う体験活動を中心とした授業に心がけた。

アクティブラーニングを取り入れている。  
DVDを使用したり、障害のある人の体験ワークを取り入れたりしている。

授業はスライドを使用して進行し、スライドと内容が連動している資料を学生に配布している。また、学生自身が自分の考えを記入する箇所もあり、グループで話し合い、他者の意見を知る機会を作っている。このことが、学生同士で授業内容を深めあったという項目の評価に繋がっていると考えられるが、今年度の学生は、教員の手助けがないとなかなか学生同士で話し合うことが難しい様子であった。また、課題を出す、調べ学習するという時間を取らなかったために、自ら情報を集めて検討したという項目についての評価が低かったと考えられる。

教材研究に繋がっていく内容を扱うように心掛けています。  
将来学校現場等で、この授業で制作した技法集(本)を見ながら教材の内容を検討したり、教材を研究したりすることができるようになればとの思いから、授業で扱った内容や学生たちが制作した作品等を1冊の技法集(本)のようにまとめてもらっています。

講義形式の教職科目のため、一方通行的な授業展開にならないように、授業中に適宜、小レポートを実施している。  
これは、学生の理解度を測ったり成績評価の材料にするためというよりは、学生からの質問や意見、さらなる問題提起をうながすために行っている。  
そのほかに、テキストの適切な使用、補助プリントの作成、新聞記事等を活用した現在の教育問題との関連づけなどに心がけている。

授業は講義形式で行うが、プレゼンテーションの資料を配布するとともに、空欄を設けて、各自で記入できるようにしている。

#### 【共通】

- ・毎回、リアクションペーパーを書かせ、次回授業のときに復習を兼ねて取り上げ、全体で質問等を共有している。
- ・ワールド・カフェとOSTの手法を用いて、15回中2回ほど議論・発表をさせている。
- ・レポートは、評価とコメントをつけて希望者に返却しており、それを授業でも活用している。

#### 【教育の社会的研究】

- ・PPTのスライドに、教員採用試験も意識して「まとめ」の部分をつくり、復習として学生自身に穴埋めを回答させている。
- ・授業の末尾に20分程度、必ずグループで討議する時間を設け、その後全体で共有している。従来は10～15分程度であったが、今年度から時間を拡大し、フリップボードに記入する作業も行い、成績評価にも組み入れた。

#### 【E選 世界の大学とキャリア形成】

- ・生徒によるプレゼンテーションと討論を中心に授業を進めている。
- ・外部講師を招聘して講演してもらうなど、授業内容を職業社会とつなげるように意識している。

生活科は、具体的な活動や体験を重視する教科です。

この教科の特性とそのための指導法や評価の在り方を具体的な子供の姿を通して理解できるように、より多くの活動や体験を取り入れた実践的な授業をおこなうことを心がけてきました。実際の授業を視聴し、授業分析も行ってきました。

毎回授業の感想を書いてもらい、一人一人の考えや、疑問に答えるようにしてきました。その感想を、次回の授業にも生かしてきました。

可能な限り体験や経験から学ぶことの大切さが実感できる場면을授業に取り入れている。

具体的には①の授業の場合は、隣接校実習直後の授業である回には、まだ意識が新鮮なうちに相互に実習の経験を少人数また全体で話し合う場面を設けている。また②の授業においては、大学を離れてグループごとに課題設定から、資料収集、発表までを実施する「探究」による活動を取り入れている。

また、補講においては、生活科・総合的学習の研究校において実践観察と児童と交流を持つ機会を通して、講義で話してきたことを実際に確かめる機会を持つようにしている。

- 1 学生がわかりやすく理論と実践の結びつきを理解できるよう使用教材を工夫している。
- 2 アクティブラーニングに手法を取り入れながら、今日的な諸問題と照らし合わせて、教員になった時の実践に役立つような授業構成を心がけている。
- 3 自らの研究や最先端の学術情報活用しながら、職業指導・キャリア教育に関する興味と理解が高められるよう授業展開を工夫している。

1) 毎回、授業についての感想や気づき、疑問点などをコメントカードに記入させた。コメントカードに記入された授業に関する気づきや疑問点を次回の授業で全体にフィードバックしつつ、それを踏まえながら授業内容の調整を行っている。  
フィードバックを行うことで、同じ教室で学ぶ学生のコメントから学びや気づきを得ている様子が見受けられる。

2) レジュメを穴埋め式にし、キーワードを学生自身に記入させることにより、座学であっても授業への参加意識を促している。

幼児教育との接続を意識した愛知県知多地方教育計画案のスタートカリキュラムを取り上げ、5分間程度のシナリオを作成させる。具体的な指導場面における予想される児童の反応をできる限り詳しく想定させる。グループワークによって相互に批評し合い、各自のシナリオを修正させる。シナリオを用いてロールプレイを全員が行い、児童役の言動の質を高めるように指導する。

- ・外部の専門家を招き実践的な話を聞いたり、フレームワークを使って課題を明らかにさせるなど、学生が主体的に取り組むための支援を意識した授業を心掛けている。
- ・毎回授業後、振り返りシートに授業の要点や課題に思う自身の考えを書かせることで、授業の理解、課題意識の向上に努めている。

教育実践の理論と技法を理解・習得させることが目的の授業であり、理論のみ・技法のみといった偏りなく、理論に裏打ちされた実践技法という観点から学べるように、授業内容・教科書の選定や作成課題の内容を考慮した。技法の意義と目的や効果について講義でよく把握させたうえで、それを学生自身の作成する授業計画に反映させる演習課題を通して、技能の習得につなげさせることを意図した。

学生のやりとりを中心に授業をおこなっている。基礎的な知識の獲得後に、あるテーマについて理解を深めるようにグループ学習を取り入れている。

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【教育科学系】

下記の3つを総合して評価を行いました。

- ① 平常点(主にコメントカードの提出状況とその内容=質)
- ② 中間レポートの提出状況とその内容
- ③ 最終試験

授業の第一回目に示した本講義で学んでほしいことについて最終試験において問うた。

授業で学んだ基本的な考え方を踏まえながら、自分の教育観を自分なりの表現で述べているかどうか。

授業参加度、中間レポート、最終レポートあるいはテストによる総合点。

授業参加度、模擬授業(模擬授業後の考察も含む)、レポートあるいはテストによる総合点。

生活科の目標や内容の理解は、自身で作成させた単元構成に現れてくるので、1回目は4人グループで1つの内容を、2回目は3人グループで1つの内容の単元構成を作成させ、単元構成のポイントを理解させた上で、3回目は一人で全員同じ内容の単元の構成案を時間を区切って作成させた。その最後の単元構成を成績評価の対象とした。単元の内容を理解できているか、生活科の趣旨を踏まえているか、一人一人の子どもへの配慮ができているか等の観点から評価した。その後、朱書きをして、各学生に返却した。

毎回の受講態度(コメントシートの内容も含む)、最終レポートの論理性、多様な視点、オリジナリティを重視して評価を出した。

授業態度、出席状況、レポートの完成度。

コメントカードの記述をもとに学生の理解度と思考力を評価する。また、中間レポートと学期末レポートの内容をもとに、講義の目標に対する学生の到達度を評価する。

授業出席率、中間テスト、期末レポート提出、コメント内容を総合的に評価

- ・レポート2つ。70%。
- ・リアクションペーパー、グループワーク・・・30%。

- (1)毎回の授業への参加態度:40%
  - (2)授業における成果物(40%)＋課題レポート(20%):60%
- (1)については、「C-Learning」における学生のコメントの質と量を見て、日頃の授業にどの程度参加しているか、また、授業内容をどの程度理解しているのかを判断し、評価している。
- (2)については、授業で求めた成果物(レポートや作品)を、「科目の趣旨の理解(記述内容)」「作品としての完成度(適切な量、体裁、写真等)」の観点から総合的に評価している。

シラバスに提示してある通り、中間チェック・期末レポート・毎授業の提出物(リフレクションペーパー)を厳正に数値で評価し、最終成績評価として提出しています。

定期試験(記述式)、授業への取り組み(観察、毎回のリフレクションペーパー点検)、提出物(授業づくり実践におけるもの)、出席をそれぞれ点数化し、授業づくりの理論や指導法に関する理解力を総合的に評価した。

期末試験を実施しその成績(70%)と授業内レポートおよび授業態度(30%)によって評価した。

**【M1生活科教育A】**

・毎時間の自分の考えの深まりや広がりを記述したノート(A4表裏1枚)を回収して評価し、それを点数化して累積した。(1時間のねらいに到達:B ねらい以上:A 到達せず:C)  
・定期試験において、15回分の授業についてどの程度理解し、修得したか、記述から評価した。  
《全体成績=15回分のノートの点数の累積(7割)+定期試験の点数(3割)》

**【S2生活科研究A I】**

・毎時間の自分の考えの深まりや広がりを記述したノート(A4表裏1枚)を回収して評価し、それを点数化して累積した。(1時間のねらいに到達:B ねらい以上:A 到達せず:C)  
《全体成績=15回分のノートの点数の累積》

出席した授業におけるリアクションペーパーでの感想意見および期末レポートから評価を行っています。リアクションペーパーでは、自分の体験と結びつけた感想や意見、独自に気づいたことを書いているかを評価しています。期末レポートでは、学んだ知見と実際の体験が結びつき、将来の活用の示唆を得られているかを基準に評価しました。

講義中に指示した提出物と授業への参加意欲や態度及び定期試験の結果を踏まえ、総合的に評価を行った。

**授業毎のミニレポートおよび期末テスト**

毎回の授業で提出されたレポートについて、評価を行った。評価の基準は、授業で学んだ内容(インプット)をもとに、自分で考えたことを書く(アウトプット)に重点を置いて評価を行った。その旨、学生にも伝えてあり、本授業においてレポートを書く際には、授業での学びとそれについて考えたことが読み手に伝わるように記入することと指導した。

授業の最後に、各自で制作した技法集(本)を提出してもらっていますが、この中に収められた作品の内容、技法集(本)としてのまとめ方、授業中の制作に取り組むようす等から成績評価を点けています。

評価の観点項目に即して、授業内容をどの程度理解できているか。  
論理的な思考、記述がなされているか。  
出席状況(小レポートの提出状況、記述内容を参考に)を加味。

中間試験、期末試験を実施し、その平均点で評価した。

**【教育の社会的研究】**

試験:40%(知識・理解)、課題レポート:40%(20%×2回、思考・判断)、グループワークの成果:20%(関心・意欲)、出欠状況:欠席1回につき2%減点

**【E選 世界の大学とキャリア形成】**

期末レポート:40%(知識・理解・思考・判断)、中間レポート:20%(思考・判断)、プレゼンテーション:20%(思考・判断)

小レポート:10%(知識・理解)、グループワークの成果:10%(関心・意欲)、出欠状況:欠席1回につき2%減点

- ①出席、授業態度
- ②理解(活動の様子や・毎回提出の感想カード)
- ③提出物(作品・観察カード等)

出席状況、受講態度、レポート(50%)試験(50%)

提出されたコメントシートの記述内容、授業における反応(発言、グループ活動の様子)、最終課題を評価資料とし、おおむねシラバスに記載した配点にしたがって、まずまず目標を達成できている学生をAとして評価した。授業の出席回数にばらつきがあるものやコメントシートの記載の質に不足が見られるものなどは、BまたはCとし、反対に授業中の反応やコメントシートの内容記述に優れ、出席も適切になされているものは、Sと評価した。なお、Sは、全体の10%程度に収めている。

<成績評価の方法>

1 授業、発表、論議への参加状況 リアクションペーパー（4回×10%）	40%
2 課題レポート（2回×10%）	20%
3 定期試験	40%

により総合的に評価した。

- 1) 提出物(課題3点)。すべての課題の提出が期末試験受験の条件として評価。
- 2) コメントカードへの記入。
- 3) 試験。手書きメモのみ持ち込み可とし、持ち込み資料の事前準備の有無を試験の点数に加味して評価した。

模擬授業における指導と評価(30%)→ロールプレイにおける授業者としてのふるまいを評価した。  
授業中の参加態度(20%)→主にロールプレイにおける児童役としての振舞いを評価した。また、発問に対する反応、グループワークの発表者等の動きをその都度記録して点数化した。  
授業内で課すレポート(50%)→生活科の本質と教科の独自性にかんする講義内容を踏まえて、課題を設定して複数回レポートを提出させた。それらの評価基準は課題への的確な回答・記述の方法・独創性及び発展性の3観点によって設定した。

レポート課題については、以下のような観点を踏まえて評価を行った。

- ・与えられたレポート課題の目的、問題に答えたものになっているか。
- ・論拠となるデータや資料の信頼性や、データ、資料に論拠との関連性はあるか。
- ・自身が立てた問いに対して、何が明らかになり、何が今後の課題となっているかがきちんと述べられているか。
- ・授業との関連性では、授業内容を理解して、答えているか。
- ・引用の仕方や、参考文献一覧の記載は適切であるか。
- ・誤字・脱字はないか。

①授業内課題および②期末レポート課題の内容を総合的に評価した。

- ①授業内課題の評価は、各技法の理解度をについて、学生たちが具体的に作成した授業計画の記述(技法別)をもとに評価した。十分な理解に基づく優れた案から不十分な理解や明らかな誤解などもあり、主に技法の理解の程度を評価した。
- ②期末レポート課題の評価は、学生たちが作成した指導計画案(総合)を評価した。こちらも①同様に、十分な理解に基づく適切な構成もあれば、明らかな誤解や不十分な内容もあり、総合的な理解と効果的な計画づくりの程度を総合的に評価した。

授業の態度、出席、グループの発表、レポートの提出、まとめのテストなど。

## アンケート結果を受けて改善したいところ 【教育科学系】

アンケート調査の結果から、授業の難易度や量などはほぼ的確のようだが、「問15 この授業のための週当たりの学習時間」が「なし」という学生が一定数いる(中間レポート課題を課しているので、「なし」はおかしいはずなのだが)ので、この改善をしていきたいと考えている。

授業の出欠についてコメントをもらっている。

「授業の出席を学生証でやっており、遅刻した場合、欠席扱いにされることがあり、それは違うと思った。電車の遅延などの人は不利だと思う」

というコメントだが、電車をはじめとする公共交通機関の遅延に関しては、遅延証明書の提出をもって遅刻扱いとはしていない。教授会において学生証の必携を連絡されていたことから、学生証がない場合は事務から学生証明書を取ってくることで対応している。人数の多い授業なので、遅刻の対応など個々の事情に対応することはしないということは初回の授業で申し伝えてあるため、いささか理解できないコメントである。

①授業規模が大人数であるがゆえに、アンケート結果を不安に思っていたが、思った以上に、受講生に授業方法を受け入れていただいていることが分かり、ありがたいことだと思った。

②年度によって学生の問題意識や集中力などが変わってくる面があるので、もう少し、意見交流する問いの内容を彼ら／彼女らの問題意識を刺激するようなものにするるとともに、意見交流の時間も長すぎず、短すぎずを心がけるようにしたい。この授業の場合、交流時間は10分、交流の回数は一回の授業につき1回が限度のようである。

③昨年度は、他の種類のワークショップも試みたが、受講人数が多すぎて、時間がかかりすぎてしまった。このため、今年度は意見交流のみを行った。しかし、毎回意見交流ばかりしていると、学生は飽きる部分もあるようだった。一回くらいは、他のワークショップを試してみてもよいかも知れない。

④上記の②と③をうまく行うためには、学生の状態や声を的確に踏まえた判断が必要である。学生が教員の目を気にして思っていないこと、考えてもいないことをリアクションペーパーに書くようになってしまうと、判断に間違いが生じるからである。こうした判断を的確に行うためにも、毎回学生に課しているリアクションペーパーをさらに書きやすいものにする必要があると思っている。努力はしたつもりであったが、今年度も成績評価に関係すると思ってしまって「いいこと」ばかり書く学生、レポート用紙をいかに埋めるかに力が入ってしまった学生がいた。次年度以降は、少なくとも用紙をスリム化する必要がある。

この授業のための週当たりの学習時間が少ないのが気になるが、教採の勉強に時間を割いているのかもしれない。教員とのコミュニケーションが「どちらともいえない」が一番多いため、学生とのコミュニケーションを図る何らかの方法を考えた方が良いのかもしれない。クラスの人数が多いのが気がかりである。

「授業の難易度」は「ちょうどいい」を多数の者が選び、次に多いのが「難しい」である。「一回当たりで扱われる授業内容の量」は「ちょうどいい」を多数が選び、次に多いのが「多い」である。そのような結果でありながら、週当たりの学習時間は「1～2時間」程度から「なし」までが一番多い。もっと多くの時間を予習復習に費やすように促す必要があるであろう。

否定的な回答は、どの項目の0%であった。肯定的な回答がほとんどであるが、問5「この授業の学習目標が到達できた」は、「③どちらとも言えない」が36.4%と最も多い。この授業は、生活科新設の経緯、学習指導要領の変遷、改訂された学習指導要領の目標や内容について、単元構成をさせることで理解をはかることであった。まず、アンケート時に学生が学習目標を分かっていたか、不確実である。アンケートの前に確認する必要があった。次に、単元構成は、それほど簡単にできる訳ではなく、朱書きをしての学生への返却が、アンケート後になってしまったため、学生個人の主観での回答になってしまった結果であると考えられる。

新しい考え方や知識という点では有用ととらえられ、学習目標も一定に達成したと認識されているようである。教職志望でない学生の多いクラスでは、「この授業の内容をさらに学びたい」が低い結果となっている。教員の説明が「ややそう思う」「どちらともいえない」両方に同じ程度分布しており、やや低い得点となっているため、今後の課題である。

必修授業で専門の授業でもないため、学生にも受身的な態度が見受けられるが、今回「おもしろかった」とのコメントをもらい今後の励みになった。批判的に吟味するだけでなく、よい評価も大切であると感じた。

授業を分かりやすいと感じていた学生や、授業の難易度が「ちょうどいい」と答えている学生が多かったのは良かったと思うが、(そのためもあってか)授業のための学習時間(授業外の学習時間)が少ないのが気になっている。



講義で指示した課題に対してはまじめに取り組んでいた様子がかがえる。また、講義の内容についても十分な理解度に達していたと判断される。反面、講義に関連することがらを自ら調べたり考えたりする姿勢は十分とはいえないので、改善案を考えていきたい。

「新しい知識が身についた」「説明がわかりやすい」「授業の難易度が「ちょうどよい」」などが過半数であり、概ねよかったと思う。ただし、「授業のための学習時間」が1時間以下の学生が多かったので、今後、レポート課題を再検討する必要がある。

長年やってるので、少しマンネリ気味ですね。もう少し、できる所から変えていきたいです。

これまで担当した授業では、「学生同士の学びの機会」や「教員とのコミュニケーション」に関して課題があったが、今回のアンケートの結果を見ると、これらの課題が改善されているように感じる。「C-Learning」のシステムの導入が効果を上げていると考えられるため、今後より効果的な使用方法を検討したい。

予復習の時間がやや不足していると考えます。授業内容の性質上、より取り組みやすい形で「復習」を中心に学習時間をもってもらえるよう改善して参ります。

時には、学生が事前・事後研究できる課題を提示し、学生の自発的な学習意欲を喚起することも授業の中で行う必要があると感じる。

まず、授業の環境面では、声の聞き取りやすさ、教材の理解しやすさについては概ね満足が得られた。授業の進度についても70%以上の学生が「ちょうどいい」と回答したことから概ね満足の得られたものと判断する。授業内容の理解については、問1・2で「強くそう思う」と「ややそう思う」という回答が80%を超えたが、一方で問3・5の自分なりの思考の展開や自らの表現で伝えられるかに対しては「強くそう思う」と「ややそう思う」のパーセンテージが低下した。今後は授業内容の理解に加え、自ら思考を展開し、理解を深め、自らの表現で伝えられるよう促すことが重要であるとわかる。その方法として問4にもあるが、学生どうして課題に取り組む機会を増やし、学生間で刺激し合える環境づくりを試みたい。これにより学習意欲の向上や授業以外での学習時間の増加にもつながることを期待している。  
このアンケート結果をもとに今後もより良い授業作りに励みたいと考える。

- ・学生とのコミュニケーションを深める場や方法を工夫する。
- ・提示した課題について自分の考えを書く際に、資料等を調べる場を工夫する。

教員とのコミュニケーションについては、大学1年生になったばかりの受講生にとっては、高校生と担任の距離の近さと比較すると、コミュニケーションのしづらさがあったかもしれないと思いました。リアクションペーパーにコメントを書いて返却することも半分以上の回でしており、コミュニケーションは十分あるかと思っていましたが、意見を受けて、コメント以外にも授業前後などの時間を使うなど、検討できればと思いました。

春の草木図鑑づくりやミニトマトやアサガオの栽培、小動物の飼育方法・飼育観察記録、身近な廃材を使ったおもちゃ作り、伝承遊びや雨の日の遊び調べなど課題も多くあり、その成果の交流方法を工夫していきたい。

学生が主体的に学べるような授業づくりを目指していきたい

各自で授業内容について調べる時間を持ったり、授業外での学習時間を担保できるよう、課題提出の有無を確認する必要性があったと感じた。

1回の授業で扱う内容が多過ぎるとの意見が思っていた以上に多かったことから、今後、この点を改善していきたいと思いました。

各項目でおおむね肯定的な回答を得ることができたが、「主体的な学習」「対話的な学習」に関連する質問項目(問2、問3、問4)で、「③どちらともいえない」「④あまりそうは思わない」という回答が比較的多くなった。授業の性格上やりづらい面はあるが、授業時間外の課題を提示したり、学生どうしの議論の場を設けるなど、できるだけ主体的に対話的な学習の充実に向けた工夫をしていきたい。

概ね評価が高かったが、「教員とのコミュニケーション」のみ「どちらともいえない」が多かった。知識伝達型の授業なので、討論などを行うことは難しいが、コメントを記述させるなどの工夫も必要だと思う。

【教育の社会的研究】

同じ授業であってもクラスによって評価のバラツキが小さくない。「問1 この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についた」の肯定的な回答は、90.0%、86.8%、74.4%である。「問9 教員の説明がわかりやすい」は84.0%、77.1%、68.0%である。最も低いクラスは体育科所属の学生が大半を占めており、もう少し体育と絡めた内容も扱うべきだったかもしれないと反省している。

【E選 世界の大学とキャリア形成】

「問8 教員の話し方は聞き取りやすい」で「どちらともいえない」が14.3%、23.1%いた。講義や発表の時間が押して、授業の後半は早口になることが多かったので、時間配分を再考したい。

問15について、なしと答えている学生が半数以上であった。一応指導要領解説書の事前読みや授業の事前準備について、シラバスや、授業日にも声をかけていたが、しなくても授業に支障がなかったと思っている学生が多かったということです。事前の学習の必要性が実感できるような工夫が必要だったと思います。

学生とのコミュニケーションの方法を質疑やコメント用紙の他にも検討したい

4年生の自由記述の中に、「3つの柱のことを15回延々と繰り返している印象で、そこから何を学べば良いのかわからなかった。もっと実際の事例を見て、こういう内容をやったなあとか思い出したかった」と記載した学生がいた。

講義においては、3つの実践事例を授業分析の形で取り上げてはいるが、4年生の中にはこのようにより事例を取り上げる希望を持っていることも考えられる。学生の思い出の回想に留まるような授業ではなく、授業者としての見通しを持てる方向での改善を試みたい。

おおむね十分な評価値であり、授業の内容や方法など、大きな方向性については、現行を基本に、次年度も進めて行こうと考える。今後は、以下に示す通り授業改善を図り、学生の職業指導・キャリア教育に対する学びが深められるようにする。

- 1 学生がわかりやすく理論と実践の結びつきを理解できるよう教材教具の工夫改善を図る。
- 2 アクティブラーニングに手法を取り入れながら、今日的な諸問題と照らし合わせて、教員になった時の実践に役立つような授業構成をはかる。
- 3 自らの研究や最先端の学術情報活用しながら、キャリア教育に関する興味と理解が高められるよう授業展開を工夫する。

事前学習を促すような工夫が必要と考えた。

また、授業内でのディスカッションや協働学習の要望も多かったため、今後できるだけ多く取り入れていきたい。

- ・毎回の授業で目標を明示すること
- ・質疑やリアクションシートの記述などのコミュニケーションの回数を増やすこと
- ・学生の探究のきっかけとなるような質の高い内容をさらに研究すること

- ・学生の意見では資料が多い、プレゼンの文字数が多いというものがあった。
- ・対象回の授業ではレポート課題のこともあり通常より多くの資料を配布したことがあるが、要点を絞った資料の作成やキーワードの明示、ポイントを絞った授業展開について心掛けたい。
- ・また、大教室で132人という大所帯の授業であるため講義型の授業にならざるを得ないことや、プレゼンも後ろに行けば行くほど見えにくくなることもある。プレゼンの文字数や配置の工夫をすることはもとより、プレゼンだけに頼らず、学生と教員、学生同士が話し合う場面を更に増やすなど、自ら考え納得が得られる授業づくりの工夫に努めたい。

担当初年度で学生たちの習熟度など不明なところがあり手探りでのスタートであったが、学生とのインタラクティブやグループワークなど、より充実させられたらと考える。また、技法の理解が不十分なところなど、今年度の様子をもとに、さらなる理解を促せるような講義内容にしていきたい。

授業で話す声が小さいという指摘があるので、改善したい。